



写真2 水道の出をチェックする金正日
総書記(2010年10月)

生だということは知っているが、目の前の蛇口から“10日に1回くらいしか出ない水道”を待っている生活ができないから川の水に頼っている」と。これらの状況を改善するため国際機関(UNICEF)や豪州政府、スイスなどが資金援助しているが、外国人の現地入りが制限されているために効果が確認されていない。これは外国人向けのパンフレットに掲載されていた珍しい写真である。金正日(キム・ジョンイル)総書記が水道の出をチェックしている。つまり国家的な目標を示していると言えよう。【写真2】

3. 北朝鮮の下水道事情

1960年代に旧ソ連から援助された浄水場や下水処理場が存在すると言われているが、定かではない。仮にあったとしても老朽化で使えなくなっているだろう。

平壤では2010年から13年にかけてクウェート政府からの援助(約28.3百万ドル、約34億円)を受け下水処理場や下水管を整備したと言われているが、現実にはポンプ場のみであり、ほとんどが無処理のまま大同江(テドンガン)に放流されている。

農村部は当然ながら污水处理はなく、川の水や井戸水は汚染された飲料水となっている。国連の調



写真3 北朝鮮付近の衛星画像(2014年2月26日NASA撮影)



写真4 平壤市内の高層ビル群(2015年10月7日筆者撮影)

べによると北朝鮮の乳児死亡率はアジア36ヵ国の中で最高(1000人当たり23人)となっている。

4. 北朝鮮の電力事情

・北朝鮮付近の夜間衛星画像

昨年、NASAが発表した北朝鮮付近の衛星画像が世界中に衝撃を与えた。

これを見れば電力事情の説明は不要であろう。北朝鮮はまるで海

のように真っ暗であり、首都平壤や数ヵ所の都市がわずかに光っているだけである。昼に見た平壤市内の高層ビルも半分位しか点灯していない。【写真3、写真4】

照明がついているのは省庁や国の施設、キム親子を讃える記念碑やモニュメント、さらに労働党幹部の住宅や軍関連施設である。もちろん我々、外国人が逗留する指定された高級ホテルは24時間給電

されている。

・電力事情

外貨不足で石炭の生産設備の老朽化対策や設備増強ができず、結果として電力不足になり、それが石炭生産量の減少を加速し、さらに電力不足となる悪循環となっている。水力発電も長年続く干ばつで貯水量が激減し発電量も減少している。さらに深刻なのがソ連の援助を受けて建設された送電線網が老朽化し漏電や断線が頻発している。世界に向けてPRしている首都平壤を除き、他の都市では一日2～4時間給電、農村部では停電が続くか時々1～2時間の点灯である。

・裕福な家庭はソーラー発電で自衛

平壤から軍事境界線の板門店まで行く途中の中小都市のアパートや、国道近くの住宅を見ると、多くの家で窓枠やベランダ、屋根にソーラーパネルを設置している。かつては労働党や軍の高級幹部にしか手が出なかったソーラーパネルとバッテリー、それに電圧安定化装置（ほとんどが中国製だが、最近は国産品も増えてきている）セットが安くなり、ある程度の富裕層には手に入る価格となっている。

闇市場では20ワットパネルが50ドル位で取引されている。家庭で電力が確保できるのに連れて携帯電話の利用者が倍増し、2015年度中には250万台から300万台になるとの予測も出ている。北朝鮮国内は完全に海外とのインターネットは遮断されており、国内のイントラ

ネットのみであるが、それでも海外の情報が続々と入るようになり当局は神経をとがらせネット検閲を強化している。【写真5～7】

電力が無ければ、すべての社会インフラは成り立たない。まずは電力の確保に国を挙げて取り組むことが最優先課題である。



国から供給される220V、60Hz給電は2～4時間、さらに電圧、周波数の変動が激しいので自前で自動AC制御変圧器を設置している

写真5 自前で自動AC制御変圧器を設置



写真6 裕福な家庭はソーラー発電で自衛①



写真7 裕福な家庭はソーラー発電で自衛②